PSU-1351J(13061)

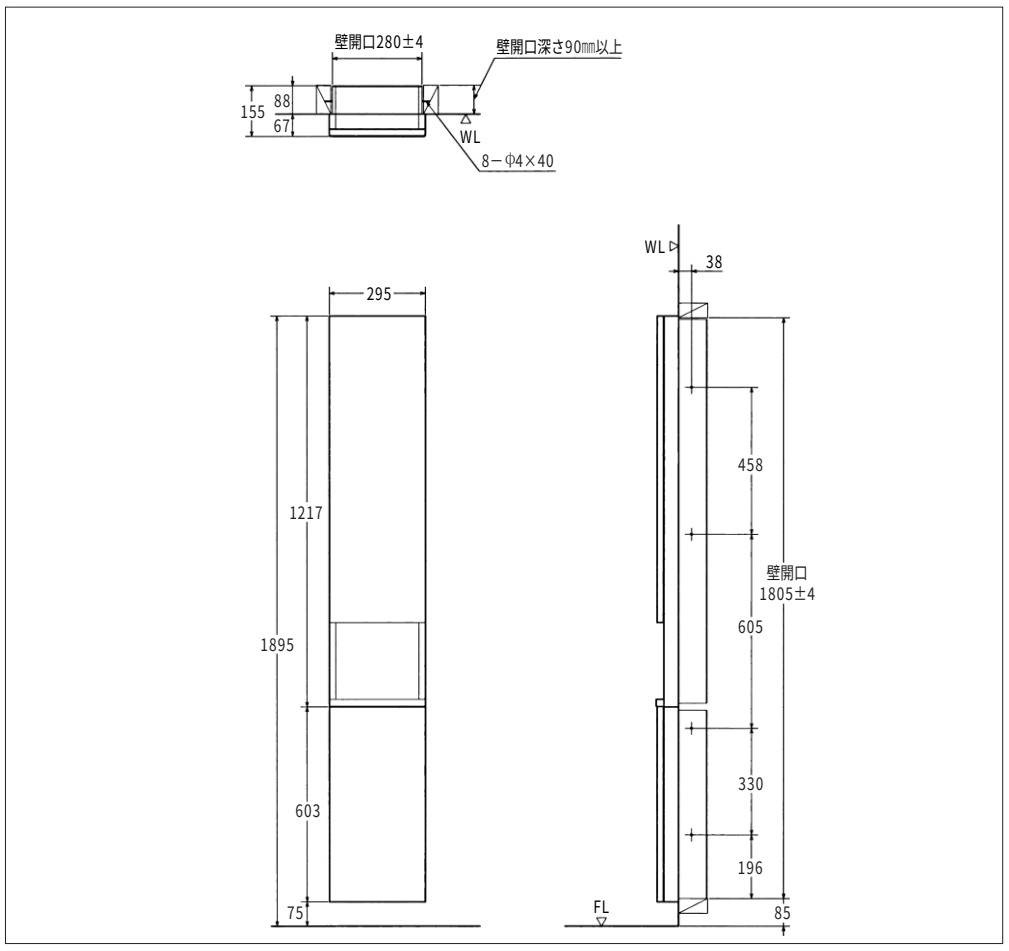
施工説明書

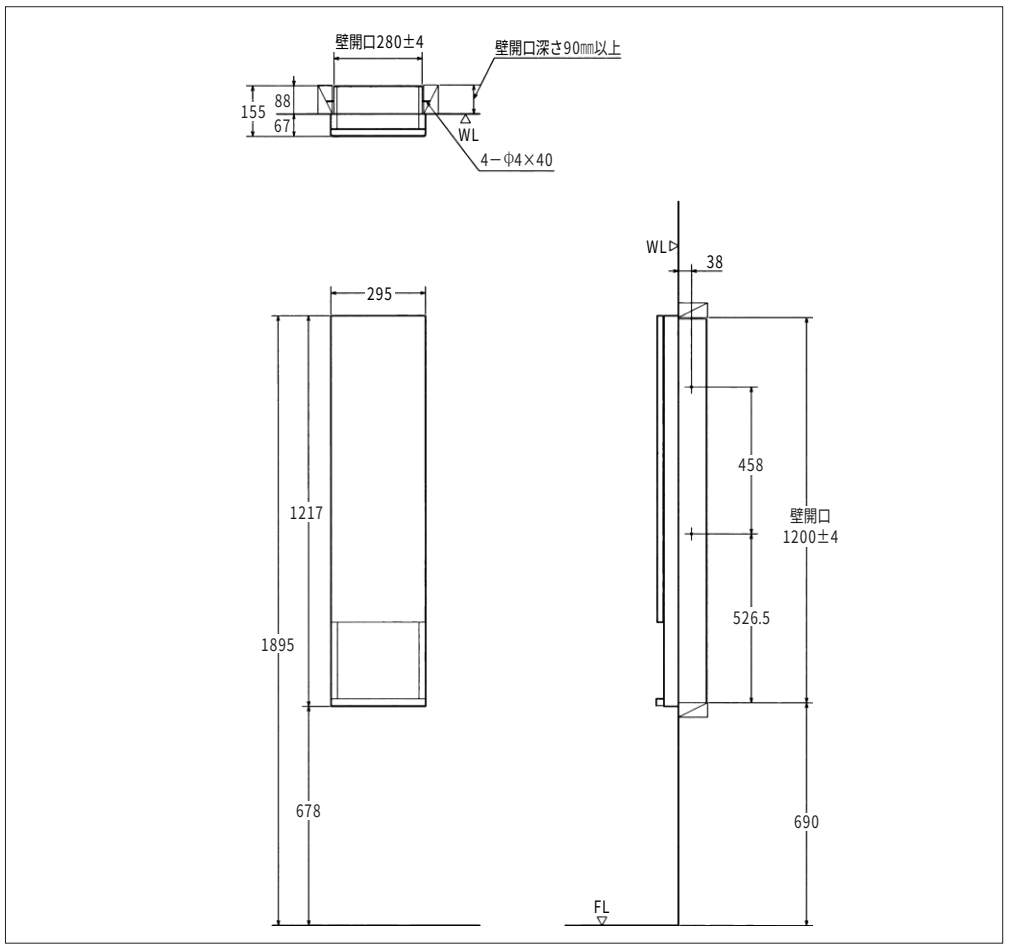
埋込収納棚

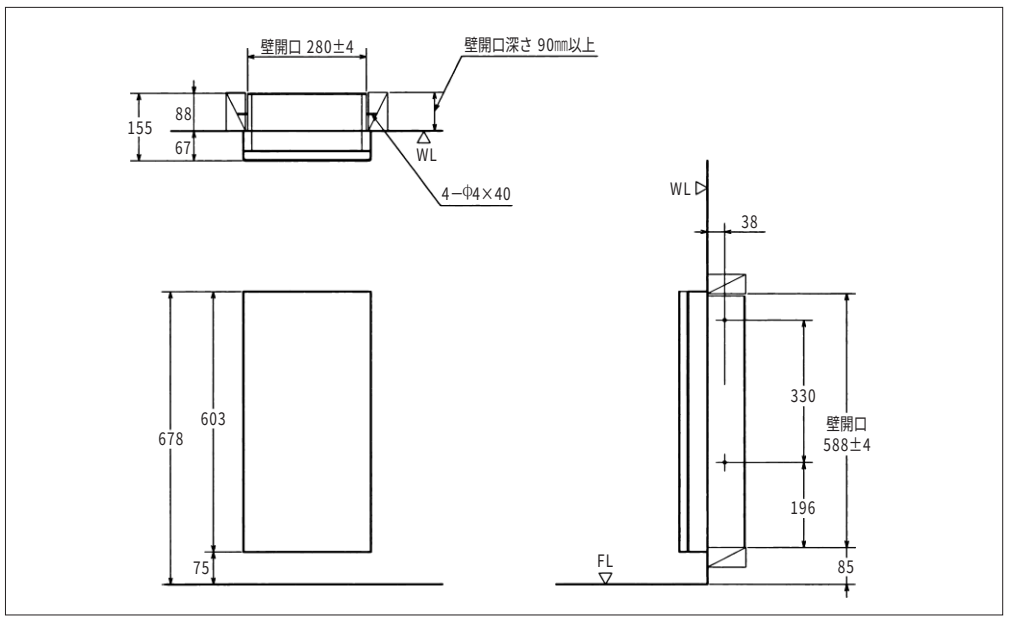
TSF-203U　TSF-204U

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書をお客さまにお渡しください。

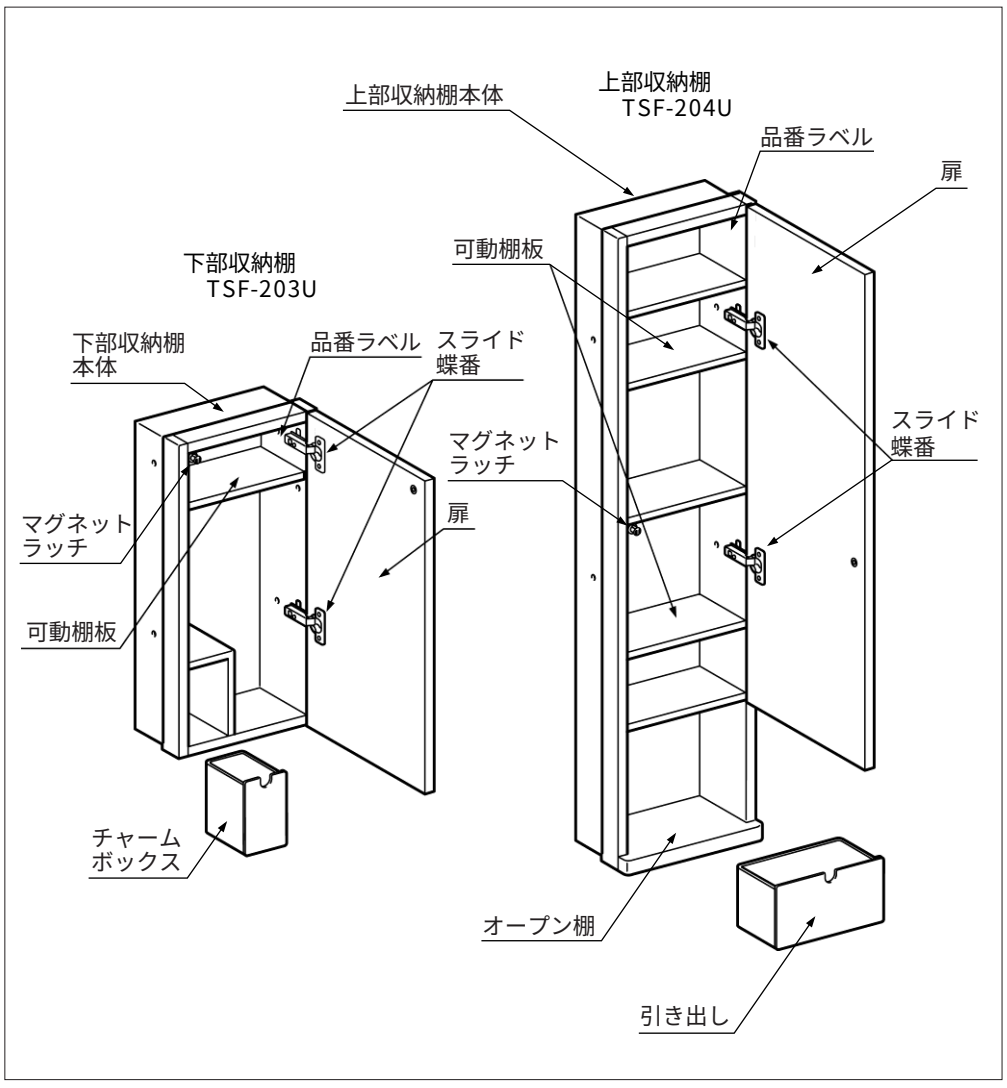
●施工完了図







●各部の名称



●同梱部品

上部収納棚 TSF-204U

部　品　名	数　量
化粧キャップ付木ねじ（専用ワッシャー付）φ4×40	4セット
引き出し	1個

下部収納棚 TSF-203U

部　品　名	数量
化粧キャップ付木ねじ（専用ワッシャー付）φ4×40	4セット
棚板	1枚
棚板受ダボ	4個
チャームボックス	1個

株式会社 LIXIL

●商品・施工方法についてのお問い合わせ
お客さま相談センターまで
ナビダイヤル TEL 0570-017-173
受付時間　平日　9:00〜18:00
土日・祝日　9:00〜17:00
（ゴールデンウィーク、夏期、年末年始の休みは除く）

●安全上のご注意

●施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。

●ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

●施工完了後、正常に作動することを確認するとともに、取扱説明書にそってお客さまに使用方法、お手入れの仕方を説明してください。

●この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまに保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

注意……「取扱いを誤った場合に使用者が軽傷を負うか又は物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

⚠ ……「注意しなさい！」（上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）

（禁止）……「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）

（分解禁止）……「分解してはいけません！」

（指示実行）……「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

⚠ 注　意

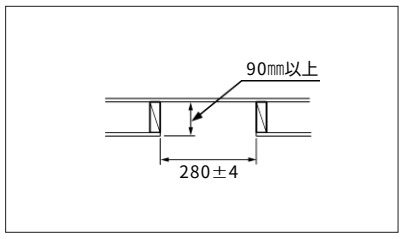
修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。 ※破損しケガする恐れがあります。	（禁止）
収納棚本体、扉、棚がガタついたまま、あるいは取付がゆるんだ状態でのご使用はしないでください。 ※物品等の落下、部材の外れによりケガをする恐れがあります。 （対処方法については、取扱説明書「修理を依頼される前に（12ページ）」をご覧ください。）	（禁止）
棚に物品を過剰にのせたりしないでください。 ※破損や落下によるケガの恐れがあります。 （棚の許容積載質量は10㎝×10㎝（100㎠）あたり0.5㎏以下）	（禁止）
施工完了後は、扉の傾き、ガタツキ、蟇番のゆるみがないことを確認してください。またスライド蟇番の調節後は必ず、Aネジ、Cネジ、取付ネジが固く締めつけられていることを確認してください。 ※締めつけが不足しますと、蟇番がゆるみ、扉の外れ、落下によりケガをする恐れがあります。	（分解禁止）
棚受けダボは側板に完全に差し込み、棚板をセットし確実に棚板が固定されていることを確認してください。 ※棚板が落下してケガをする恐れがあります。	（分解禁止）
ストーブやヒーターなど熱を発生するものの近くに置いて使わないでください。 ※変色や変形、火災をおこす恐れがあります。	（禁止）
直射日光が当たる場所は必ずカーテンなどでさえぎってください。またスポット照明や殺菌灯を直接当てないでください。 ※変色や変形の恐れがあります。	（禁止）
酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤類、ベンジン・シンナー・ラッカー・アルコール等の溶剤や油類を使用して拭かないでください。 ※変形や変色の恐れがあります。（溶剤がつきますと跡が残ることがあります。）	（禁止）

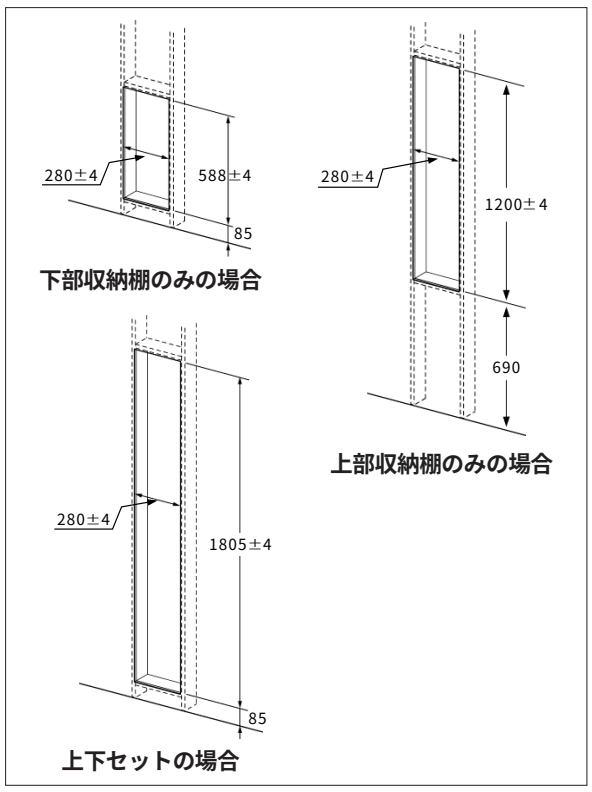
●施工前の確認

●壁の開口部が右図の寸法であることを確認してください。

●商品取付のための木ねじ固定用として、厚さ45㎜以上の縦・横桟が必要です。

●埋込深さは、壁仕上面から90㎜以上必要です。



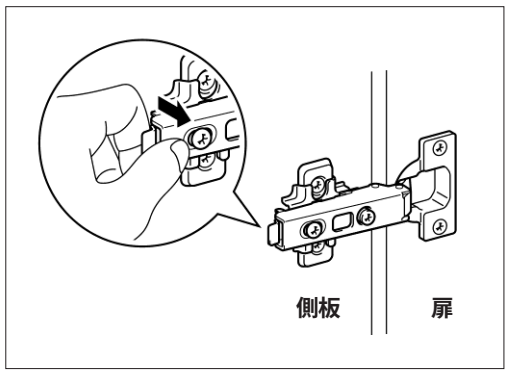


●施工方法

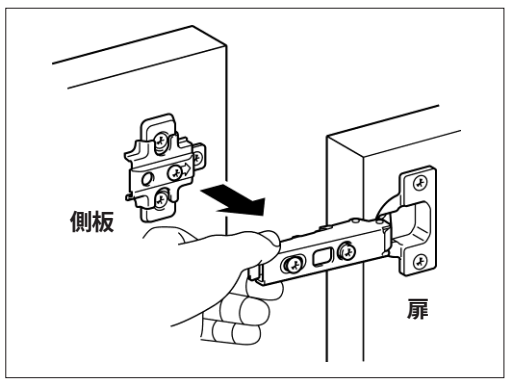
1. 上部収納棚及び、下部収納棚を単独で取り付ける場合

①収納棚に入っているものを全て取り出し、扉をはずします。

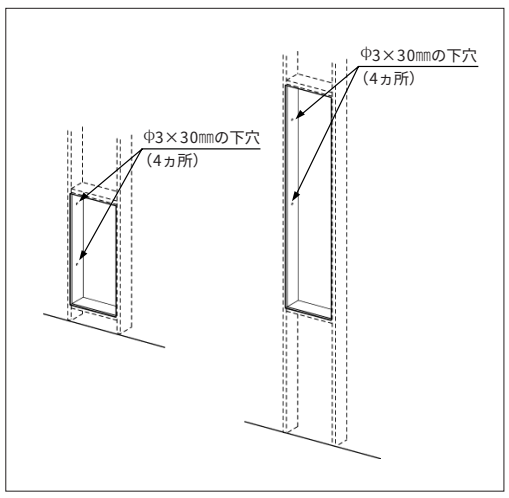
(1)蝶番の先端つまみを矢印の方向に引き上げ、ロックを外します。



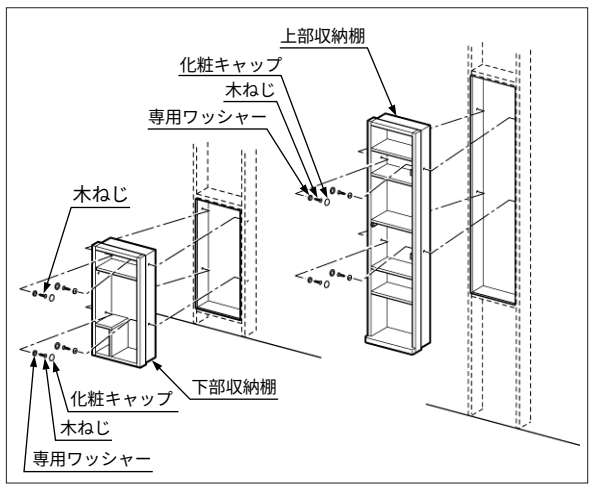
(2)蝶番を矢印の向きに引っ張って、取り外します。

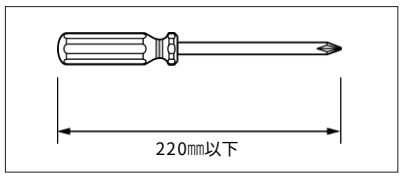


②収納棚本体をいったん横桟木上にすえ置き、水平垂直及び、フランジが壁面開口部を確実に塞いでいることを確認した上で、施工ビス位置をけがき、φ3㎜、深さ30㎜の下穴をあけます。
※下穴は必ずあけてください。



③開口部に収納棚をはめ込み、付属の木ねじで固定します。ねじ固定は木ねじに専用ワッシャーを通して固定した後に化粧キャップをはめ込みます。

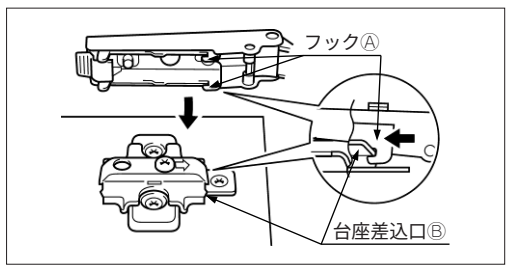




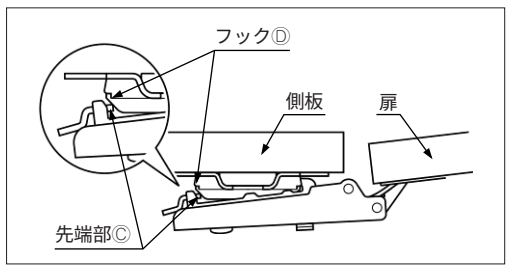
作業可能なドライバーは、長さ220㎜以下のプラスドライバーです。
※木ねじを強く締めすぎないでください。収納棚本体が変形することがあります。

④扉を収納棚本体に取り付けます。

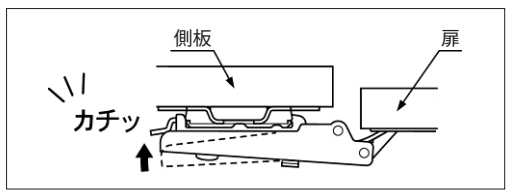
(1)蝶番のフック Ⓐを台座差込口Ⓑにひっかけます。



(2)蝶番の先端部Ⓒのツメをフック Ⓓに合わせます。

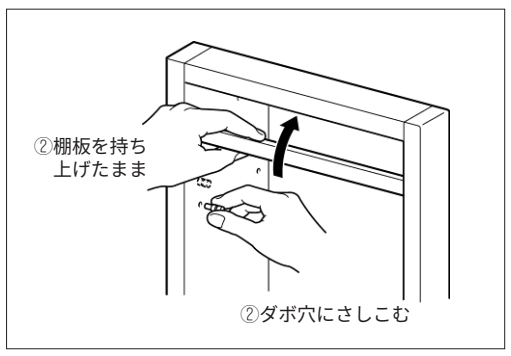


(3)蝶番を矢印の向きに「カチッ」と音がするまで押します。



※扉は収納本体に確実に取り付けてください。
※取り付け後に扉のズレ、傾きがある時は、蝶番を調節してください。（蝶番の調節は「●扉の調節」の項をご覧ください。）

⑤棚板を取り付けます。棚板を上段に合わせる時は、棚板を収納棚本体内に入れ、持ち上げた状態で棚板受けダボをダボ穴に差し込んで、棚板を取り付けます。
※棚板を上段に合わせる時は必ず、棚板受けダボを差し込むよりも先に棚板を入れてください。順序を逆にすると、棚板がつけられません。

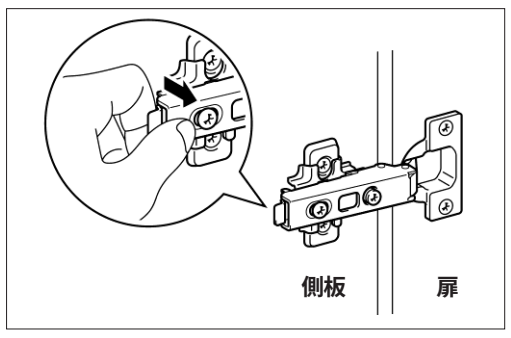


⑥①で取り出した付属品の梱包をとき、収納棚本体にもどします。

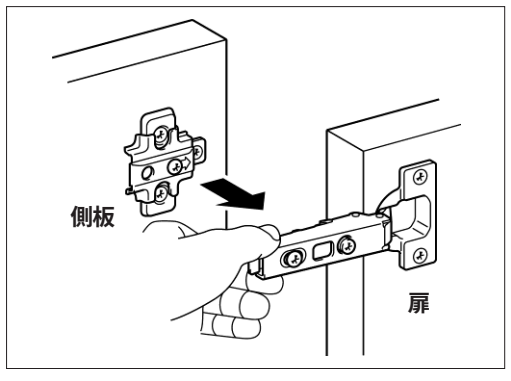
2. 上部収納棚及び、下部収納棚を同時に取り付ける場合

①収納棚に入っているものを全て取り出し、扉をはずします。

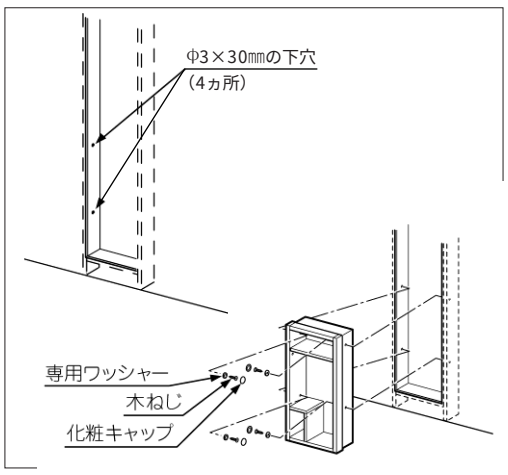
(1)蝶番の先端つまみを矢印の方向に引き上げ、ロックを外します。



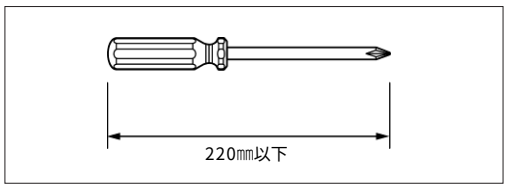
(2)蝶番を矢印の向きに引っ張って、取り外します。



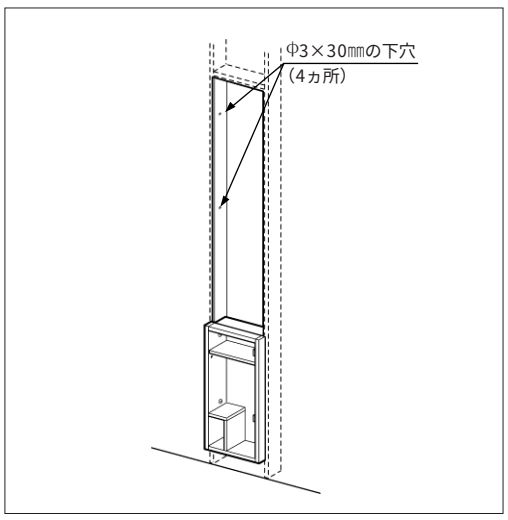
②下部収納棚本体を横桟木上にすえ置き、水平・垂直及び、フランジが壁面開口部を確実にふさいでいることを確認した上で、施工ビス位置をけがき、φ3㎜、深さ30㎜の下穴をあけます。
※下穴は必ずあけてください。



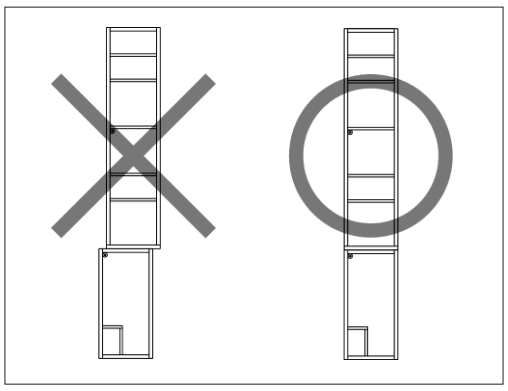
③壁面開口部に下部収納棚本体をはめ込み、木ねじに専用ワッシャーを通して固定した後に、化粧キャップをはめ込みます。
作業可能なドライバーは、長さ220㎜以下のプラスドライバーです。
※木ねじを強く締めすぎないでください。収納棚本体が変形することがあります。



④下部収納棚本体の上に、上部収納棚を重ねて置き、施工ビス位置をけがいてφ3㎜、深さ30㎜の下穴をあけます。
※下穴は必ずあけてください。

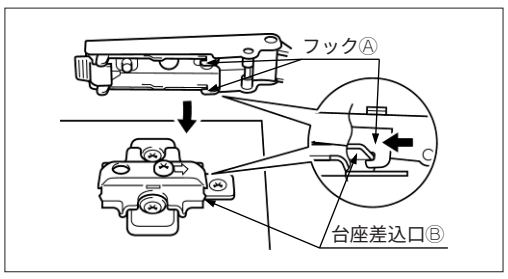


⑤下部収納棚本体とのズレがないように締めつけ具合を調節しながら固定します。ねじ固定は木ねじに専用ワッシャーを通して固定した後に、化粧キャップをはめ込みます。
※木ねじ固定時に本体を強く締めすぎないでください。下穴は必ずあけてください。

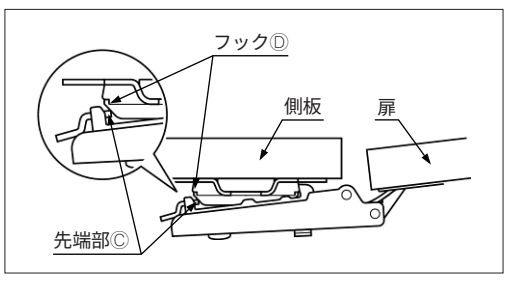


⑥扉を収納棚本体に取り付けます。

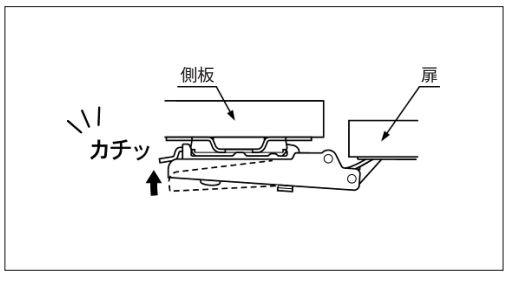
(1)蝶番のフック Ⓐを台座差込口Ⓑにひっかけます。



(2)蝶番の先端部Ⓒのツメをフック Ⓓに合わせます。



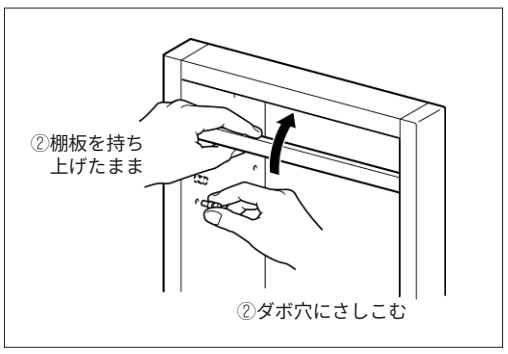
(3)蝶番を矢印の向きに「カチッ」と音がするまで押します。



※扉は収納本体に確実に取り付けてください。
※取り付け後に扉のズレ、傾きがある時は、蝶番を調節してください。（蝶番の調節は「●扉の調節」の項をご覧ください。）

⑦棚板を取り付けます。棚板を上段に合わせる時は、棚板を収納棚本体内に入れ、持ち上げた状態で棚板受けダボをダボ穴に差し込んで、棚板を取り付けます。

※棚板を上段に合わせる時は必ず、棚板受けダボを差し込むよりも先に棚板を入れてください。順序を逆にすると、棚板がつけられません。



⑧①で取り出した付属品の梱包をとき、収納棚本体にもどします。

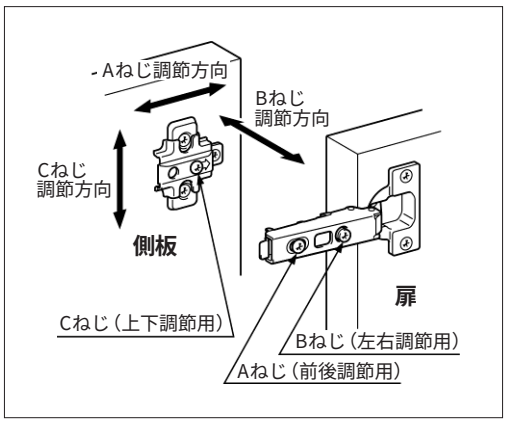
●扉の調節

1. スライド蝶番の調節

●調節する際は⊕ドライバーをご使用ください。

●Ａねじ、Ｂねじ、Ｃねじ以外のねじは絶対にゆるめないでください。

●調整後は必ずＡねじ、Ｃねじが固く締め付けられていることを確認してください。



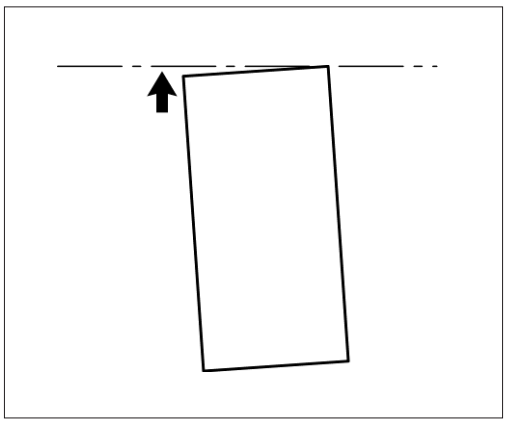
●調節方法

(1)扉の先端を上に上げるとき

①扉下方の蝶番のＢねじを左へ回して調節します。または、扉上方の蝶番のＢねじを右へ回して調節します。

②扉を締めて確認します。

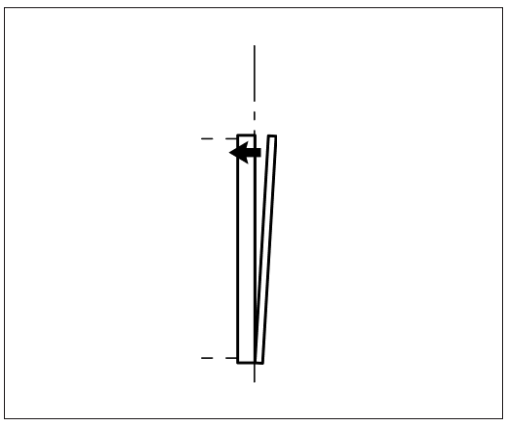
③正しい位置になるまで①、②を繰り返します。



(2)扉と側板のすき間が上下違うとき

①扉上方の蝶番のＡねじを左へ回してゆるめ、扉を動かして前後の正しい位置にします。

②正しい位置でＡねじを右へ回して締め付けます。

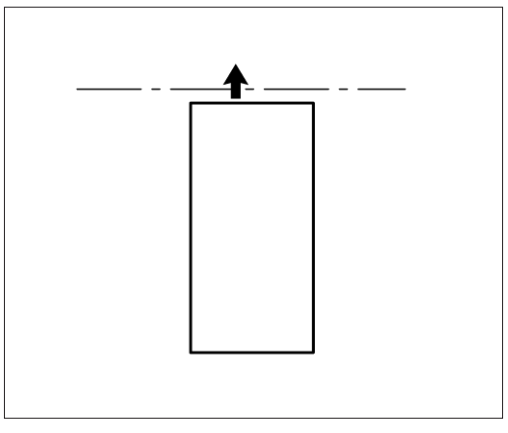


(3)扉の高さが上下にずれているとき

●扉の位置が上下異なるとき

①扉の上下の蝶番のＣねじを左へ回してゆるめ、扉を上下させて正しい位置にします。

②正しい位置でＣねじを回して締め付けます。

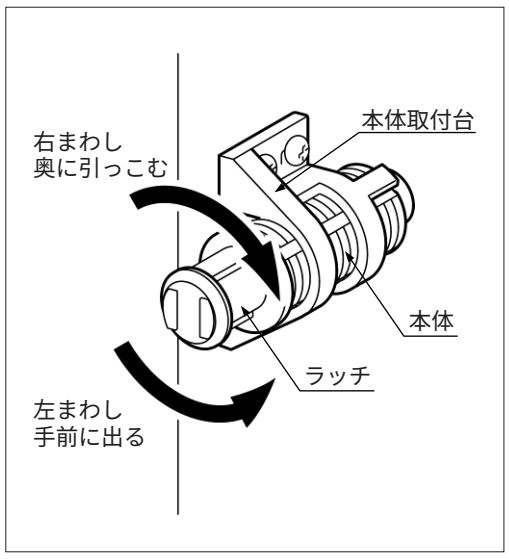


2. マグネットラッチの調節

●マグネットラッチは工具なしで調節が可能です。

●あらかじめ最適な位置に調節してありますが、蝶番を調節した後で、扉の左右のすき間を微調節したい場合に操作してください。

※本体が、奥へ引っこみすぎると、ラッチのロック機構が働かなくなります。その時は本体を手前に出すように調節しなおしてください。



●施工後の確認

●収納棚本体の確認

(1)収納棚本体の取付ねじが十分に締まっているか、ゆるみがないか確認してください。

(2)棚板受けダボが確実にダボ穴に差し込んであるか確認してください。

●扉の確認

(1)蝶番のAねじ、Cねじが確実に締めてあることを確認してください。

(2)扉の開け閉めの時に、マグネットラッチのロック・解除のロック機構が働くことを確認してください。
（ロック・解除の時は「カチッ」と音がします。）